



第8次山田町総合発展計画の策定にあたり、広く町民の意見や提言を反映させるため地域懇談会が開催されました。(町中央公民館)



沼崎詔安議員

所信表明

町民の負託に答える決意は

町の生き残りをかけ施策を推進

質問 二期目の町政を担当するにあたり、町民から寄せられた負託に答える決意を示せ。

沼崎町長 厳しい先行き不透明な環境の中で、何としても町の生き残りをかけた施策を推進するため、日々の努力を重ねていく。町民の選択が間違いでなかったことを身を持って示すため、これからの四年間全力を尽くす決意である。

質問 国が進めている「三位一体の改革」の当町への影響は。

沼崎町長 平成十六年度は、地方交付税と臨時財政対策債をあわせて、前年度より一〇割以上の減額や保育所運営費に対する国県支出金の削減などで、当初予算編成に大変苦慮した。本年度の地方交付税と臨時財政対策債の合計額における伸び率は、マイナス五・四割で決定している。「三位一体の改革」の全

町の考えを聞く

容は現在も明らかではないが、国庫補助負担金の廃止・縮減と、これに伴う地方への税源移譲が行われる。

地方交付税は地方財政計画の規模縮小により、さらに抑制される。今後の財政運営も相当厳しいと考える。

財政問題

町の自立に向けた取り組みは

行政改革大綱の実施を促進

質問 平成十五年五月に発足した「財政健全化対策研究会」の成果を示せ。

沼崎町長 平成十五年度は、十六年度の歳出規模抑制のため、発展計画事業と扶助費の見直しを検討した。主要四事業については、計画事業費を約四億八十九万円減額、一般事業については、計画事業費を約八千二百万円増額している。扶助費については、長寿祝金や町単老人医療給付費など約

一千万円が見直された。平成十六年度は、一般財源で一〇割を削減する対策の実行を目指している。

質問 町の自立に向け、行政計画の更なる推進の取り組みは。

沼崎町長 現在の行政改革大綱の計画年度は、平成十七年度までであり、当面は最終年度に向けて改革事項を点検し、実施促進するとともに、次期大綱の策定検討に取り組んでいく。